

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自然に恵まれた教育環境のもと、確かな学力、豊かな心、社会性を身につけた生徒を育成するために、組織的な取り組みを行い、生徒の夢と志を実現できる、地域に信頼され誇りとされる学校をめざす！

- 1 生徒の一人ひとりに確かな学力と豊かな心、社会性を育成する。
- 2 生徒の多様な可能性・ニーズに応える教育課程を編成するとともに、音楽専門コース等を充実し進路を実現する。
- 3 きめ細かな指導により生徒一人ひとりの良さを引き出し、生命と人権を尊重した教育活動を展開する。
- 4 地域環境を活かし、保護者・地域と共に歩み、組織的な教育活動を行う開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 確かな学力と社会性の育成

- (1) 生活習慣・学習習慣の形成の徹底をはかる。
ア 遅刻指導、頭髪・服装指導、授業規律指導等に関して組織的に取り組み、きめこまかな指導を行う。
※一人あたりの遅刻回数を毎年2～3%ずつ削減し、平成26年度には平成23年度比で10%減にする。
- (2) 「わかる授業、充実した授業」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
ア 各教科における授業研究を推進し、授業改善に取り組む。
※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を毎年1%ずつ引き上げ、平成26年度には全学年・全科目で70%以上にする。
- (3) 学校行事や部活動をととして生徒の自主性・社会性を育成する。
ア 体育祭・文化祭などの学校行事に工夫を凝らし、生徒の自主的かつ積極的な参加を促す。
イ 新入生の部活動への勧誘を工夫し体験入部期間などを設けることにより、部活動への積極的な参加を促す。
※生徒の学校行事への満足度を常に65%以上とする。
※新入生の部活動入部率を毎年40%以上とし、平成26年度には50%以上とする。

2 夢と志を持つ生徒の育成をめざし学校の特色づくりを推進

- (1) 音楽専門コースの充実を計画的に行う。
ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用を図り、より専門的な知識・技能の習得を図る。
※生徒による授業評価での授業満足度（自身の積極的な取り組み）を全科目で80%を越えるようにする。
- (2) 「夢チャレンジ！」を合言葉に、卒業時の進路未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導を行う。
ア 進路指導ノート等の活用を図り1年時より3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施する。
イ キャリアカウンセリング体制を充実し、一人ひとりの生徒が抱える進路の問題を解決できる組織的指導体制を作る。
※卒業時の進路未定者を毎年減少させ（平成22年度2.2%）平成26年度には1%とする。また毎年就職内定率95%以上を維持する。
- (3) 中期計画推進費によって整備された視聴覚教室の活用を図る。
ア 音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。
イ キャリア教育をはじめ、学年、クラス、グループでの活動の場として活用し、生徒の自己実現をめざす活動の場として利用する。
※年間を通しての視聴覚教室の利用率を高める。活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証する。

3 生徒理解の促進と教育相談体制の充実

- (1) 多様な生徒の生活、生育、心の発達に伴う不安や悩み等を把握し適切に指導する。
ア スクールカウンセラーの活用や外部の諸機関とも連携し、教育相談機能の一層の充実を図る。
※事例ごとに必要な対応ができてきているかの検証を行う。

4 地域連携、校種間連携を強化し、開かれた学校づくりを推進

- (1) 地域や地域の学校、施設との連携活動を促進し、地域への貢献度を高める。
ア 既存の連携活動をさらに充実させるとともに、地域との連携活動の拡大を図る。
イ 生徒・保護者への周知を図り、より多くの生徒の自主的参加を募る。
※活動参加者を毎年2～3%ずつ増加させる。平成26年度以降常に延べ100人以上の参加者を確保する。
- (2) 学校の取り組みを積極的に発信し、学校理解を促進する。
ア ホームページの充実や中学校訪問、学校説明会などの広報活動を強化する。
※ホームページの全面改訂を行い、その後更新作業を每学期3回以上行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】</p> <p>・「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が、全体で H24-61.3%、H25-73.5%、H26-67.4%と創立30周年を迎えた昨年より減少しているが、ほぼ平年並みとなった。しかし3年生は、H24-66.2%、H25-70.5%、H26-75.0%と顕著に伸びており、学校生活の充実度が伺える。</p> <p>・「自分の学級は楽しい」と答えた生徒についても、全体で H24-63.3%、H25-72.5%、H26-70.7%となっており、学校行事やHR活動をととして安定して「仲間づくり」がうまくいっている結果といえる。</p> <p>・「部活動に積極的に参加している」と答えた生徒の割合は全体の昨年の54.9%から52.2%と若干減少したが、3年生では逆に48.0%から58.3%と大きく増えており、年を追って部活動が充実した結果と思われる。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・「授業が分かりやすく楽しい」と答えた生徒が、全体で H24-41.3%、H25-53.7%、H26-53.5%と一昨年よりも高く昨年と同程度で、恒常的に授業改善に取り組んだ成果といえる。ただ1年生が45.0%と低く、さらに改善の余地がある。保護者の「子どもが、授業が楽しく分かりやすいと言っている」では、3年生が H25-42.3%から H26-66.7%と例年に比べて極端に高く、学力向上に対する評価が高いことが伺える。</p> <p>・先生の教え方の工夫については、教員は89.4%が工夫していると答えているが、生徒は54.6%とまだまだ工夫が足りないと感じており、さらなる改善が必要である。</p>	<p>第1回学校協議会（平成26年6月27日（金）開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎施設が他校に比べてもきれいに維持されている。 ○ 廊下などの展示や掲示物もきちんとされている。 ○ 課題のある生徒も多いが、生徒は成長の度合いが違うので本校は必要である。 ○ 先生の連携が取れている様子が窺えた。 ○ 昨今の生徒の現状は家庭環境の問題が大きい。 ○ 学校の良いところをもっと発信して行って、定数を確保していく。 ○ 4月当初は制服もきちんと着ていたが、バス内の乗車マナーが悪く、乗客の方からも苦情があった。先生方も努力してバス指導に当たってくれている。 ○ 校長が毎朝、周辺のゴミを拾って率先しているので、校舎内もきれいである。職員も巡視中にゴミを拾っていたのが良かった。 ○ フレンドリーコンサートなど、小・中・高が合同で取り組んでおり、音楽を大切にしながら子供たちが育っている。このことは評価される。 <p>第2回学校協議会（平成26年11月18日（火）開催） （本校の閉校について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まだ存続の可能性があるのならば、存続に向けて運動をしていきたい。「守る会」の活動をととして一緒に活動してくれた生徒の意識も変わった。何事にもあきらめないという姿勢を示すことで、少しでも刺激になればいい。 ○ 大阪音楽大学で本校卒業生の2名のレッスンを見ている。池田北高校出身のOBも大勢いる。大人がこのことをスルーする態度（貴重な学校を閉校とする）はよくない。本校生出身の音楽家のプロも育っている。 ○ マスコミが本校の存続への取り組みを取材してくれている。一致団結していこうといういい形ができています。 ○ 中学生の進路の選択肢が減り、保護者の方々も心配している。今後どうなるかという具体性がなく中学校の現場では混乱している。今後の情勢が分析しにく

【生徒指導等】

・生徒の「先生は生徒の意見を聞いてくれる」では、全体で H24-54.7%、H25-61.1%、H26-63.4%と、また「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」でも、同じく H24-58.6%、H25-58.3%、H26-61.3%と増えており、教育相談体制や生徒に寄り添った生徒指導がより一層充実した結果と考えられる。

・生徒の「先生は協力して生徒指導に当たっている」は、全体で H24-58.6%、H25-63.0%、H26-66.5%と、「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」も、同じく全体で H24-58.3%、H25-59.9%、H26-61.7%と肯定的な回答が少しずつ増えており、近年特に生徒との信頼関係や指導体制がうまくいっていることが伺える。

【進路指導】

・生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」は、全体で H24-62.2%、H25-71.4%、H26-68.5%と昨年同様高く、特に2年生 H24-65.5%、H25-70.2%、H26-75.8%と、3年生 H24-62.0%、H25-75.7%、H26-83.3%と飛躍的に伸びている。キャリア教育を充実した成果が表れている。「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」は3年生で H24-68.8%、H25-71.1%、H26-80.6%と増えた。近年進学のための奨学金制度についての説明会を充実した結果といえる。

【学校経営】

・保護者のアンケート結果を見るとほとんどの項目で肯定的な意見が60%を超えており、学校経営に対して肯定的であることが伺える。

・保護者の肯定的な意見が75%を超えた項目は「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」84.9%、「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」80.8%、「子どもは、学校に友達がいるといっている」85.3%、「学校では子どもに関する個人情報を守られている」87.1%などがあり、反対に50%より低い項目は「この学校の生徒会活動は活発である」41.2%、「PTA 活動に参加することがある」20.5%、「学校のホームページをよく見る」27.1%などがあり、これらを参考に今後も学校経営改善に取り組んでいかなければならない。

い。

- 生徒数が減り少ない人数でも、教育を充実させるべき。常に就職（内定）率100%であり、学校を残すべきである。
- この細河地域で来年度から子どもたちの豊かなはぐくみをめざす小中一貫校（教育）がスタートする。池田北高校がなくなると、町の活性化がなくなり大きな問題である。将来バスの便が減ったり、若者が町から出ていったりすることが危惧される。

（全般について）

- 日頃の学校での生徒の充実した取り組みの様子がよくわかって良かった。
- （学校が存続するように）生徒は守ってあげたい。
- 生徒の授業アンケートでは、先生個人の情報の開示という問題がある。信憑性の問題もあり取り扱いが難しい。全体的な傾向はつかめる。
- 中学校でも授業アンケートで生徒の意見を先生にどう伝えるかが大切である。
- キャリア教育で実践の中身が大切だということが分かった（高い成果を上げている）。大学に行かなくても立派に進路につながっていることは誇れる。今後中学生にも話をして進路について考えていかなければならない。
- 取り組みが充実している。生徒は夢をもって、しっかり育ってきている。
- 音楽を学んで活動の中で、それを発揮している。
- 本校がなくなるとするのは残念。今後いろいろな取り組みの中で学校が続くように願っている。

第3回学校協議会（平成27年2月19日（木）開催）

（保護者との連携について）

- 保護者への学校からの通知文が届きにくい。今後学校メールの活用を図っていくために、合格者説明会などの場で直接受信設定をしてもらうのが良いが、パソコンからのメールを受信拒否する設定になっている場合が多い。その解除方法も合わせて説明する方が良い。
- 保護者の意識がまだまだ低いので、保護者が学校へ足を運ぶ機会が増えたらいい。子どもの生活が見えると子どもとのコミュニケーションの機会も増える。保護者がフォローできれば、さらに生徒が居心地のいい学校になる。
- 保護者が大学についてもっと知ることができれば、子どもの進路が拡大する。

（学校教育自己診断結果について）

- 自己診断結果から、1年生が学校へのなじみが低いことが数値に出ている。先生の努力とともに、生徒の愛着も湧き頑張りが出てくると思う。
- 自己診断では学年のカラーが出ている。（学年の進行とともに）先生との関係性も良くなり、3年間成長していっている。課題の多い生徒もいるが、池北へ行きたいという子どもをうまく育てて卒業させてほしい。
- 自己診断結果をどう解析するかが課題である。

（学校の取り組みについて）

- 将来就職に何が重要かという、コミュニケーション能力や人のかかわりを学ぶことが大切である。そのためには発表する場が必要であるが、池北では多くの実体験ができていことはうらやましい。

（その他）

- 今後の大阪の入試改革について、うまく生徒、保護者に伝わるか心配である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と社会性の育成	<p>(1) 生活習慣・学習習慣の形成 ア 遅刻指導・授業規律についての組織的な取り組み</p> <p>(2) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善 イ 教科等による授業研究・授業改善</p> <p>(3) 学校行事や部活動の充実 ウ 体育祭・文化祭などの学校行事の工夫 エ 新入生の部活動への勧誘強化</p>	<p>(1) ア・従来の遅刻指導も強化しながら、考査前の遅刻指導強化週間での指導やカウントダウンシステムを活用した指導も徹底し、相乗的効果をねらう。さらに効果の上がるようにシステムの改善を図る。 ・授業に入る際の準備等の指導を徹底する。</p> <p>(2) イ・年2回の公開授業週間を利用して教科で授業研究を行う。 ・年2回の生徒による授業アンケートを行い、授業の状況、生徒の反応等を分析・把握し、それをもとに各教員が授業の改善を検討し、実施する。 ・外部研修の伝達研修を行い研修の充実を図る。</p> <p>(3) ウ・生徒状況の変化に対応した行事の内容や実施方法の検討を行う。 エ・新入生に対する全員参加の体験入部のさらなる工夫や再入部への勧誘をすすめ、新入生の入部率を高める。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻回数を H23 年度比 10%削減 (H23 16.2回/人)</p> <p>(2) イ・生徒による授業評価での「授業への積極的な取り組み」の肯定意見を全体で80%以上。</p> <p>(3) ウ・体育祭・文化祭・修学旅行が「楽しかった」を全行事とも70%以上(平成25年度、70.7%、63.3%、78.1%) エ・新入生の部活動入部率を全体、男女とも50%以上(平成25年度50.1%、男55.4%、女45.2%)</p>	<p>(1) ア・1人当たりの回数は全体で18.5回となった。1年生は26.1回、2年生は14.3回、3年生は5.4回となっている。2・3年生は目標を達成しているが、1年生はかなり増加している。(△)</p> <p>(2) イ・アンケートでは、1年70.5%、2年80.2%、3年81.2%、全体では79.4%で、1年生のみが少し低かった。(○)</p> <p>(3) ウ・クラス数は減少したが、それぞれの行事に新たな工夫がみられて、特に体育祭応援合戦や文化祭オープニング行事などが充実していて良かった。しかしながら両行事とも「楽しかった」が68%にとどまった。修学旅行も内容の工夫もあり87.5%とかなり満足度が上がった(○) エ・1年生は男子41.2%、女子36.1%、全体で38.8%と極端に低かった。(全学年では男子53.4%、女子47.0%、全体で50.3%) (△)</p>
2 学校の特色づくりを推進	<p>(1) 音楽専門コースの充実 ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用促進 イ 音楽専門コース発表や活動の場を確保</p> <p>(2) 未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導 ウ 3年間を見通したキャリア教育の計画的実施 エ キャリアカウンセリング体制の充実 オ インターンシップへの参加者増加</p> <p>(3) 中期計画推進費による視聴覚教室の活用 カ 音楽専門コースの活性化やキャリア教育の場として活用促進</p>	<p>(1) ア・専門コースにおける専門性を高めるために、大阪音楽大学を中心に連携を強化し、外部講師の活用を図る。 イ・音楽専門コースの発表会をはじめ、部活動とも連携して多くの発表の場を確保することにより、生徒の優れた能力の開発の場とする。</p> <p>(2) ウ・3年間の進路指導計画に沿って、キャリア教育支援事業を活用し、進路指導ノート、職業体験、体験談講演会、模擬授業などをとおして、望ましい職業観・勤労観を養う。 エ・就職希望者に対して、キャリアカウンセラーなどの専門家による就職指導や外部講師による面接指導をとおして企業が求める人材について理解させ、社会人としての自覚を持たせる。 オ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるインターンシップへの参加を勧める。</p> <p>(3) カ・音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。 ・学年、クラス、グループでの活動の場として生徒のキャリア教育に役立てる。 ・学校説明会などの広報活動、地域との連携活動などにも広く活用する。</p>	<p>(1) ア・講師による講座に関するアンケートでの満足度95%以上 イ・発表会について生徒アンケートでの満足度95%以上</p> <p>(2) ウ・卒業時の進路未定者を2人以下 エ・就職内定率95%以上 ・キャリアカウンセラーや外部講師の活用回数、活用状況 オ・インターンシップへの参加者5%増(平成25年度26人) カ・年間の利用率と活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証</p>	<p>(1) ア・今年も文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を活用しての「クラシックギター」の公開講座を2回実施、さらに1学期にクラリネット、3学期に合唱と箏楽の公開講座を実施した。新しい分野や内容も充実しており、いずれもレベルの高い講座で生徒の満足度はほぼ100%であった(◎) イ・音楽専門コースの発表会も昨年よりレベルが上がり、生徒の満足度はほぼ100%であった(◎) ・芸術発表会では音楽の舞台発表もレベルが上がり、美術・書道の展示も充実したものととなった(◎)</p> <p>(2) ウ・今年度進路未定者は、0名となった(◎) エ・就職内定率は、1月段階ですでに100%を達成した。府の「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し、就職支援コーディネーターを配置し、さらに専門のアドバイザーや企業からも外部講師を招へいし指導を強化した(◎) オ・1・2学期で、すでに27人がインターンシップに参加。年度末には42人となった(◎)</p> <p>(3) カ・通常の授業や部活動の他、学年HR等(キャリア教育など)16回、音楽専門コースの公開講座4回、進路説明会7回、地域連携のフレンドリーコンサートの練習会場7回、学校説明会会場3回として活用した(◎)</p>
3 開かれた学校づくりを推進	<p>(1) 地域との連携活動を促進 ア 既存の連携活動のさらに充実と拡大 イ より多くの生徒の自主的参加拡大</p> <p>(2) 情報発信 ウ 中学校訪問や学校説明会などの広報活動の充実</p>	<p>(1) ア・地域の幼・保・小・中をはじめ地域コミュニティや福祉施設などとの交流活動を推進し、生徒の学びの場とするとともに、地域貢献をとおして本校への学校理解を促進する。 イ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるボランティア活動への参加を勧める。</p> <p>(2) ウ・中学校へ訪問しての学校案内を充実させるなど、直接中学生への説明機会を増やす。また、学校説明会の時期・内容を検討して、参加者の拡大を図り、入学生確保に努める。</p>	<p>(1) ア・既存の活動内容の充実と連携活動の新規開拓 イ・ボランティア参加者延べ100人以上</p> <p>(2) ウ・学校説明会への参加者(平成25年度210人)を5%増の220人以上</p>	<p>(1) ア・新規開拓はなかったが、乳児・幼児との「のびのびひろば」年3回、小・中・高・一般との「フレンドリーコンサート」、高齢者施設への訪問などを行った。内容は充実して好評であった(○) イ・吹奏楽部、弦楽部、ダンス部、テニス部、生徒会やその他の生徒もボランティアに積極的に参加したが、全校生徒数が減ったこともあり約90名余りとどまった(○)</p> <p>(2) ウ・池田市民文化会館での音楽専門コース説明会は32名と昨年より増加し、またこの取組みが「特色ある取組み」として関西テレビの取材を受けた。学校説明会参加者は全体では218名でほぼ目標を達成した。中学校への出前授業など講師派遣事業なども4回行い、これについては特色ある取組みとして朝日新聞に記事が掲載された(◎)</p>